

「生活作文の書き方教室」掲載作文使用条件

① 「生活作文の書き方教室」（以下「本サイト」）掲載作文の著作権は放棄しておりません。使用条件に同意した場合にのみ使用できます。

② 本サイトの作文は、学校（小学校および中学校）提出に限りその使用を認めます。

③ 本サイトの作文を使用し、何らかの問題が発生しても、本サイトおよび管理人は一切の責任を負わないものとし、すべて使用者の自己責任で対応するものとします。

④ 本サイトおよび作文に関しては、苦情とうは一切受け付けません。

⑤ 何かしらの問題が発生する可能性がある場合、判断した場合、使用は中止してください。

⑥ 本サイトの作文を他サイトへ転載することは厳禁です。

⑦ 本サイト掲載作文への直リンクは厳禁です。

以上

てみると、五十五点しか取れなかった。
 そのとき母が部屋に入ってきた。「でき
 た？」と聞いてきた。僕は正直に答えた。す
 ると母が「●年生のドリルを買ってきて、そ
 こから勉強し直さなさい」言った。下の学年
 の勉強をしななければならないなんて、恥ずか
 しかった。「算数はできなくなつたところま
 で戻って勉強しないと、できるようにはなら
 ないの」とのことだった。しかし、恥ずかし
 いとか言っていていられない。もう一度本屋さん
 に行つて、下の学年のドリルを買ってきた。
 家に帰つて算数の勉強を始めた。下の学年
 のドリルなので簡単だった。自己採点をした
 ら八十五点だった。間違つた問題をもう一度
 解いたら正解だった。それから毎日四ペー
 ずつ、算数ドリルで勉強した。満点は取れな
 かつたが、八十点以上は取れていた。下の学
 年のドリルでも、正解するのは気持ちがいい
 ところがある日、五十五点しか取れなかつ
 た。●だった。そういえば、●年生のころ、

このあたりから算数がつまらなくなつたよう
 な気がしたのを思い出した。算数ができなく
 なつた原因が分かつた。「ここからきちんと
 勉強をすれば、算数が苦手ではなくなるん
 だ」と思うと、やる気が出てきた。
 去年使つた算数の教科書を本棚から持って
 きて、勉強をし直した。よく分からなかつた
 しかし、何度も繰り返し教科書を読んだ。
 「繰り返し読めば分かるようになる」と父の
 言葉を信じて、勉強を続けた。すると、あれ
 ほど分からなかつた問題が急に理解できるよ
 うになつた。何で今まで分からなかつたのか、
 不思議に思えた。初めて自転車に乗れたとき
 のように、逆上がりができたときのように、
 一度できればもう二度と間違わなかつた。
 そろそろ夏休みも終わりになる。下の学年
 の算数はほぼ理解できた。一学期に習つた範
 囲も半分くらいは分かるようになった。もう
 半分分かるようになる、算数が苦手でなく
 なる。そう考えるとうれしくなつた。